



学校だより 12月臨時号

泉区緑園五丁目28番

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

「笑顔」

いよいよ子どもたちが楽しみにしていた冬休みが始まります。ご心配をおかけした感染症も各ご家庭のご協力により、大流行まで至らずに冬休みを迎えることができました。ありがとうございました。

後期前半を振り返ると、子どもたちの明るい笑顔にこちらが元気をもらうことができました。

特に印象に残った子どもたちの笑顔が二つあります。一つ目は、「緑園音楽祭」のときです。本番での緊張しながらの笑顔も印象的ですが、それよりも強く心に残っているのは、「いざ、本番！」と座っている場所から舞台に向かうときの笑顔です。私は自分が座っている場所から、舞台に向かう一人ひとりの顔が見えましたが、今年は殊更に笑顔の素晴らしさに感動しました。どの子も自分の出番を「待ってました！」と言わんばかりの力強い笑顔です。高学年になると、ちょっぴり照れくさそうな表情も混ざった独特の笑顔です。その笑顔に、練習中の真剣な表情が重なりました。練習を積んで自分の演奏に自信をもっているからこそ、今までの自分の取組に納得をしているからこそ、このような笑顔になれたのだと思います。

たくさんの保護者の皆様が、お子さんがご家庭でも一生懸命練習しているエピソードをアンケートに書いてくださいました。「こうやってがんばってきたのだなあ。」と、子どもたちの顔を思い浮かべて胸が熱くなりました。(アンケートへのご協力をありがとうございました。まとめを2ページ目以降に掲載させていただきました。)

二つ目は、「人権週間」の取組での笑顔です。本校では、毎年、全校での取組だけではなく学年での取組も行っており、特に3年生以上は体験活動を行っています。3年生は「手話教室」と「レインボーマラソン」、4年生は「認知症サポーターキャラバン」、5年生は「保育園交流」、6年生は「福祉施設での作業体験」です。どの学年も、体験を通していろいろな立場の人の思いや願いを知り、他者とのかかわりを考え、これからの自分の生活に生かしていくことをねらいとしています。子どもたちが体験する様子を観ていましたが、体験時の一人ひとりの笑顔もまた素晴らしかったです。こちらの笑顔はあたたかく優しい笑顔です。振り返りでも、「大変だったけど、楽しくて体があたたまりました。心がつながった気がしました。(3年生)」「ありがとう、すごいねという言葉が大切です。(4年生)」「自分たちも楽しくて、今までで一番よい満足と楽しさの笑みが出ました。(5年生)」「最初は緊張もありましたが、言葉も交わし、一緒に楽しく作業をすることができました。(6年生)」等、笑顔の理由がしっかりと書かれていました。

子どもの笑顔は正直です。瞬間の笑顔にその子の本当の気持ちが表れます。お付き合いや、いやいやながらのつくった笑顔はすぐにわかります。だからこそ、私たちは、子ども一人ひとりの表情をしっかりと見つめ、心の様子を汲み取っていかねばいけません。

一人の子どもの中にはいろいろな感情があり、マイナスな気持ちが行動に表れてしまうこともあります。でも本校の子どもたち一人ひとりの心に確かに存在する「前向きさ」「優しさ」を、笑顔を通して感じることができます。これからも、一人ひとりの笑顔が増えるような学校をつくっていきたいと思います。

1月10日、子どもたちの朝陽に輝く満面の笑顔を見ることを楽しみにしています。今年一年、保護者、地域の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

皆様も笑顔で、よいお年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。